

## 今求むべきものの

札幌聖化大会委員会・単立札幌めぐみキリスト教会牧師 高橋 養二



「あなたがたは正義の種を蒔き、誠実の実を刈り入れよ。あなたがたは耕地を開拓せよ。今が主を求めるときだ。ついに主は来て、正義をあなたがたに注がれる。」(ホセア10:12)

「最善の事は、神が私たちとともに行う事である」このJ・ウエスレーの最後の言葉は、ただ一度だけではなく、臨終の床で、何度も繰り返して語られたものであるという。「戦う使徒ウエスレー」より

このことは、次の事を物語るのではないだろうか。

1 彼の追求したものの

彼は、偉大なリバイバルの器、説教者、教育者、そして社会的な実践者であり、彼のリバイバルが英国に

もたらした影響は、計り知れないものがあつたと言う。しかし彼が何よりも求めたものは、神御自身（と共に歩むこと）であつた。

神が人との関係（人そのもの）を求めておられるのに対して、人は、自分の状態（況）の変化にひたすら関心を向けて追い求めている。アダム以来今も変わらないこの図式（創世記3・6-9）は、教会の中にも、容赦なく押し寄せつつあるように見える。たとえよきもの（例えばリバイバル）ではあつても、神御自身を求めすることに、先んじる事であつてはならない。

ウエスレーの最後の言葉はその意味では、今日の私たちへのメッセージではないだろうか。

2 彼の体験したものの

ウエスレーは、体験を強調したと言われる。その体験がどのようなものであつたかをこの最後の言葉が物語っているのではないか。

いかなる奇跡的体験に勝つて、人の生の真ん中を、共に歩んでおられるお方を知る事が、彼の最大の体験であつたのではないだろうか。（ヨハネ4・26）

札幌聖化大会は、主の恵みによって第十一回大会の今日まで、一貫してウエスレーの、証したこの恵みに貫かれてきたことを感謝している。主の御再臨の迫りつつある今、私たちの近くを歩まれる主を、求め、喜びとしてまいりたく願う者である。

### 札幌聖化大会委員会

- (1) 一九九八年年度の活動  
委員会開催 7、8、12月を除く毎月第二火曜日に開催した。
- (2) 学び会の開催 9、10、11月の委員会において、聖化に関する書物の紹介と懇談を行った。
- (3) 大会の開催 5月19日(火)・20日(水)、北海道クリスチャンセンターにおいて、「第10回記念大会」を開催した。講師は、本田弘慈師と村上宣道師。出席状況は、聖会①一三四名、聖会②一七名、③一二二名、聖会④一三七名、セミナー四六名、教職歓迎会二七名。
- (4) 機関紙(会報)の発行 十周年を記念して、会報「ハギオス」を発行した。一〇〇〇部。
- (5) 新メンバーの加入 日本イエスキリスト教団岩見沢幌向小羊教会牧師前田寿浩師が加入され委員は一五名となった。
- (6) 年間会計総額 七二三、四九五円  
他に基金二五三、九九二円。
- 2 一九九九年年度の予定  
(1) 委員会の開催 7、8、12月を除く毎月第二火曜日に開催する。
- (2) 学び会の開催 9、10、11月の委員会において、聖化に関する書物の紹介と懇談を行う。
- (3) 大会の開催 5月18日(火)、19日(水)、北海道クリスチャンセンターにおいて、「第11回大会」を開催する。講師は、日本イエスキリスト教団香登教会牧師工藤弘雄師。
- (4) 機関紙(会報)の発行 主な内容、巻頭メッセージ、証し、北海道のきよめ派教団教会の歴史。大会メッセージ、セミナーの要約。
- (5) 年間予算 五六万円。

### 宮城聖化交友会

- 1 一九九八年年度活動報告  
「聖化大会・第10回仙台大会」  
A 午前の集會  
\*日時 9月23日(水休日) 午前10時30分〜正午  
\*講師 岩本助成師(日本フリースト教団理事長・西田辺伝道所牧師)  
\*会場 C・Bクリスチャンセンター  
\*証詞 久保以津子師(イムマヌエル綜合伝道団・郡山教会)  
\*聖書 ペリピ3・12・14  
\*主題 「進行形の人生」  
\*出席者 八三名  
B 午後の集會  
\*日時 9月23日(水休日) 午後2時〜4時  
\*講師 岩本助成師(日本フリースト教団理事長・西田辺伝道所牧師)  
\*会場 C・Bクリスチャンセンター  
\*証詞 佐竹 静師(イムマヌエル綜合伝道団・大湊教会)  
\*聖書 第一ヨハネ4・16・21  
\*主題 「全き愛に生かされる」  
\*出席者 八一名  
一九九八年の大会にも、宮城県のみなから福島県、山形県、秋田県、岩手県、青森県からも出席下さった。  
II 一九九九年年度活動予定  
「聖化大会・第11回仙台大会」  
\*日時 一九九九年9月23日(水休日)  
\*会場 C・Bクリスチャンセンター  
\*講師 飯塚俊雄師(日本イエスキリスト教団・東京若枝教会牧師)

### 山形聖化交友会

- 第三回山形聖化大会  
「日時」一九九八年9月23日(水) 午前10時〜午後4時  
[講師] 黒木安信牧師(ウエスレアン・ホーリネス教会連合 浅草橋教会)  
賛美の集い I 10時〜10時30分  
〈聖会I〉 10時30分〜12時  
〇聖書 出エジプト3章1〜17節  
〇説教 「聖なる神に出会う祝福」  
黒木安信牧師  
〇特別賛美 加藤 昇牧師  
〇司会 下沢 保牧師  
〇賛美 釣 俊栄牧師  
〇証し 西山政江牧師(日本ホーリネス教団 小国教会)  
賛美の集い II 13時30分〜14時  
〈聖会II〉 14時〜15時30分  
〇聖書 申命記34章1〜12節  
〇説教 「聖なる神に至る祝福」  
黒木安信牧師  
〇司会 平良友紀牧師  
〇賛美 平良信子牧師  
〇証し 加藤真知子牧師(基督兄弟団 米沢教会)  
〇特別演奏 フルート・ピアノ  
〔参加人数〕 九十名  
〔参加教会〕 十教会  
第四回山形聖化大会  
日時 一九九九年9月23日(水) 午前10時〜午後4時  
講師 朝比奈信裕牧師(イムマヌエル綜合伝道団 和歌山教会)  
場所 基督兄弟団 米沢教会

### 東海聖化交友会

昨年および今年の活動

6月聖会	
小林和夫師(一妻教会)	土日 150名 日 300名
10月聖化大会	
マゴニガル師(福音センター)	80名
1月遠州聖会	
本間義信師(IGM浜松)	110名
(2) 今年(99年)の予定	
6月聖会	
高橋虎夫師/一妻教会	
10月聖化大会	
ロナルド・スミス師/福音センター	
1月遠州聖会	
河村義師	

- (1) 昨年(98年) 会員状況  
II 遠州浜松・愛知県・岐阜県・三重県にある、ホーリネスの背景・伝統にあると思われる四十六教会を連絡対象としている。うち約二十五教会が積極的に関わっている。会員加盟は(教職者個人)ではなく(教会単位)としている。(転任があっても継続を願って)
- (2) 会計と経済状況  
II 収入は会費(一〇三、〇〇〇円)と集金献金の二本立て。集金献金が祝されつつある。
- (3) JH A、JH A関東が全国の働きのために経済面で主体的に荷を担って下さっていることに感謝し、①年会費収入の三分の一、②集金献金の十分の一、③評議員会の交通費と会報指定のための献金などに加わらせていただいている。  
II 復活のために献金を掲げている  
II 会報の発行  
II 「東海聖会報」を年に一、二回発行している。内容は集金案内、会計報告、所属教団の紹介、良書紹介など。

# 交友会 会報告概略

〇〇ビルで開催されました。その報告のあらましを以下に記します。

# 第14回 評議員

第14回目を迎えた評議員会が本年、1999年3月8日(月)午後、御茶の水C

## 栃木聖化交友会

一九九八年度活動報告  
 第二回 栃木聖化大会  
 講師 シオン・キリスト蒔田教会  
 牧師 岸田 馨師  
 聖書 テサロニケ第1の手紙4章1-8節  
 説教題「キリスト者の健全性」

## 九州聖化交友会

1 前年度(一九九八年度)事業の概要  
 第9回 九州聖化交友会大会  
 10月26-27日  
 会場 日本ナザレン教団熊本教会  
 プログラム  
 12日(夜) 聖会  
 H・マゴニガル博士  
 13日(午前) 婦人大会  
 H・マゴニガル博士  
 (昼食時) 教職者懇談会  
 (午後) セミナー  
 H・マゴニガル博士  
 (夜) 聖会  
 H・マゴニガル博士

## シオン・ウエスレーン学会

※司会 山田 隆師  
 ※特別賛美 杉本俊二師  
 ※出席者数 八四〇名  
 ※席上献金 一三〇、〇一八円  
 一九九九年活動計画  
 第三回 栃木聖化大会  
 ※日時 3月7日(日)午後7-9時  
 ※会場 イムマスエル宇都宮教会  
 ※講師 小平照夫師

集会報告		1 一九九八年度	
第34回大会	1998年5月19日(日)	第35回大会	1998年10月23日(日)
開会礼拝	小山恒雄師 24名	開会礼拝	岩上輝雄師 60名
公開講座	鈴木一郎師 44名	公開講座	マゴニガル師 72名
聖会	鈴木一郎師 77名	聖会	マゴニガル師 101名
会場	ナザレン大阪桃谷教会	会場	ナザレン大阪桃谷教会

## 今年度主講師プロフィール

四十三才の若さで昨年、ウエスレー・ビプリカル・セミナリーの学長に推挙されましたロナルド・E・スミス博士は、アズベリー大学学長デニス・キンロー博士によれば、「米国においてウエスレアン・メソセージを明確に代弁し、力強く説教する器」であり、ウエスレー・ビプリカル・セミナリーの元学長ハロルド・スパン博士によれば、「広く知られた教会の指導者(特にホーリネス運動において)、ウエスレアンの神学者、際立った学者、エバンゼリスト」であります。

## ロナルド・E・スミス博士

オハイオ州に生まれ、青少年期をニュージャージー州で過ごし、アズベリー大学、アズベリー神学大学院(M.Div.)、プリンスストン神学大学院(M.Th.)、ドルー大学院(Ph.D.)で学び修められました。牧師としても優れた実績を残し、その秀でた説教と牧会のゆえに著しい教会成長を見ています。一九九三年、フランシス・アズベリー協会(キンロー博士によってウエスレアン・アルミニアン文書の出版を通して、聖書的ホーリネスの宣証を旨とする)に加わり、一九九五年には実行委員長に就任されました。

集会予定		2 一九九九年 活動計画	
第36回大会	1999年5月18日(日)	第37回大会	1999年10月22日(日)
開会礼拝	高村征志師	開会礼拝	未定
女性の集い	藤巻 充師	女性の集い	未定
公開講座	藤巻 充師	公開講座	ロナルド・スミス師
聖会	藤巻 充師	聖会	ロナルド・スミス師
会場	桃谷ナザレン教会	会場	未定
備考	第18回総会	備考	

## 邦人講師

### 田代 幸雄博士

ドーリーナ夫人との間に二女が与えられています。

パウロ(幸雄)田代博士は、茨城県出身。軍国少年時代を経て、ホーリネス教会の伝道に憧れて回国。東京聖書学院で学ばれた後渡米、オグルン大学、アズベリー神学大学院(M.Div.)、ヘブル・ユニオン大学(Ph.D.)で学び、現在ウエスレー・ビプリカル・セミナリーの、旧約学主任教授として活躍され、古代中近東の十三カ国語に通じ、牧会経験も豊富です。

## 関東聖化交友会

財勢		教勢		1998年12月31日現在			
集会名	席上献金	予約献金	合計	月日	集会名	集会人数(名)	第13回聖化大会教勢財勢報告
聖会I	260,556	994,000	1,254,556	10月19日(日)	セミナーI	236(261)	19日送ベ
聖会II	567,502	1,044,200	1,611,702		レセプション	38(43)	804
セミナーII	182,703	137,000	319,703		演	225(273)	(903)
女性大会	355,075	645,000	1,000,075		聖会I	305(326)	89.0%
その他	—	23,500	23,500	10月20日(日)	女性大会	358(423)	20日送ベ
合計	(1,306,282)	(3,791,000)	(3,975,982)		教師交歓会	36(44)	1164
	104.6%	388口106.5%	105.9%		セミナーII	277(328)	(1299)
	1,365,836	2,843,700	4,209,536		神学生交歓会	120(127)	89.6%
					聖会II	373(377)	

特記事項 ( )内は第12回聖化大会の数字です。

特記事項 女性大会にも男性も含まれる。( )内は第12回聖化大会の数字です。

# 昨秋・東京聖化大会「聖会メッセージ」概要

## 聖会 I

ハーバード・マゴニガル博士

「神に渴く」

山上の垂訓は神の国に生きる者の性格を表している。まことにホーリネスそのもの、キリストの生き方である。神は私たちの中にこのような生き方が形をなすように願っておられる。そして神は義に飢え渴いている者が必ず満ち足りることを約束しておられる。(マタイ5章8節)

私たちは本当に神なしにはやっていけないと自覚しているだろうか。神の民であるならば、その印として神をひたすら求めるはずである。この大いなる祝福は渴いてたまらないという人に与えられると主は語っておられる。

聖書は飢えに渴いて神を求める人たちを多く見ることができよう。  
①詩篇63篇1節、②詩篇84篇2節、③ピリピ3章10節、これらの渴きは神ご自身に向かっており、この渴きからリバイバルは始まる。渴きのないところにリバイバルは望めない。既にキリストを知っていたパウロであるが、キリストとよみがえりの力を知りたいと願った。私たちもキリストを知れば知るほどもっと知りたいと思うようになる。

私たちはどれほど願っているだろうか。義に飢え渴くということとは神ご自身のようになりたいという渴きのことである。神と一つになり、神を反映して生きるためにこそ私たちは贖われ、救われた。神を切実に求めて失望に終わった人は一人もいない。神は聖書をもって私たちを満たしたいと願っておられる。神は義なる方であるから私たちをも義なる者となさりたい。

ロイドジョーンズは義に至る四つのステップを講解している。  
一、本当に望んでいるか。あるクリスチャンは現状に甘んじている。二、神の祝福を妨げるものを取り除け。聖書を悲しませるものを捨て去れ。三、神の義を生涯の目的とせよ。四、恵みの手段を十分に活用せよ。聖書と祈り、教会のわざに互いに分かち合って励め。

神は求める私たちを空し手で帰すようなことはなさらない。失われた神の私たちを回復し、聖霊によって神の民の私たちを回復して下さる。その条件は飢え渴くということ。さよくなりなさい、その祝福がほしいとはっきり言わなければならない。  
(寺村秀嗣)

## 聖会 II

ハーバード・マゴニガル博士

「ローマ書におけるペンテコステ」

ローマ書はさまざまな意味ですばらしい神学書であるが、特に8章は聖霊について解き明かしたすばらしい神学の章である。

I 8章のコンテキスト(文脈)

ローマ書のクライマックスである8章に至るまでの過程を見よう。1章18節〜3章19節には神のさばきに服すしかない罪の現実を見る。私たちはまず人間の悲しい現実を受けとめねばならない。しかしその後には喜ばしい福音がある。そこには信仰の見本(4章)、信仰による義(5章)、信仰による聖化(6章)、律法のもとの悔い改め(7章)が書かれている。そして8章はパウロ自身が経験したローマ書のペンテコステである。

II 8章と7章のコントラスト(対比)

①奴隷から自由へ  
7章14節には罪の奴隷であることの悔めさが非常に強い表現で書かれている。しかし、8章には輝かしい解放がある。私たちの生涯を悔めな奴隷状態のままおいてはならない。8章の解放に導こうとしておられる主が私たちに助けて下さる。

②敗北から勝利

7章でパウロは、善を行う意志があっても行えない自分を敗北者と宣言するが、8章には神の律法をなす者としての勝利の宣言がある。律法のもとに生きるなら、いつも格闘しなければならぬが、御霊に満たされ、愛による自由が与えられると、結果的に成し遂げることができるようになる。

③聖霊に満たされる

7章には14節以降、聖霊という言葉が一度も出てこないが、8章には聖霊についての記事があふれている。聖霊なき生涯から御霊による生涯へ進むべきである。

III 8章のコンテンツ(内容)

8章に語られている事は御霊にある自由である。聖霊による成就(2節)、原動力としての御霊(4節)、御霊の内住(6節)、御霊による新生(9節)、御霊による勝利(11節)、御霊による支配(13節)、御霊の所有(14節)、御霊の保証(15節)、御霊の証し(16節)が約束されている。7章に甘んじずに、8章のように生きようと願おう。御霊による生涯を自らの体験としよう。  
(寺村秀嗣)

## 総務だより

「聖化」第26号をお届けします。今年度は何とかして、年度三回発行を目指し鋭意努力中です。お祈り下さい。(係)